

[協働事業の企画書概要]

<p>事業名</p> <p>事業主体</p>	<p>書写能力の普及及び向上</p> <p>書道サークル、書道教室、書道会、教員OB等</p>
<p>事業の概要</p>	<p>『どういう問題を解決しようとしていますか?』</p> <p>課題、問題点</p> <p>現在の文部科学省の学校教育法施行規則による小・中学生の国語科の書写の標準授業時数、指導教員数では十分な成果が期待できない。</p> <p>対策実施概要</p> <p>学校の書写の授業時間に参加し、担当の先生の指示に従い、児童たちの筆の使い方等について具体的に指導する。 (先生の部分的指導補助者)</p>
<p>どういう主体と協働するのがよいと考えていますか?</p>	<p>主体A：市内の書道サークル(約20団体)</p> <p>主体B：民間の書道教室、書道会(文化書道学会など) (師範免許保持者を主体とする)</p> <p>主体C：教員OBチーム</p>
<p>協働事業としてそれぞれの主体に何を期待していますか?</p>	<p>主体A： 日本の伝統文化である書道の学童等への普及、向上に対する理解と協力、支援 現在の小・中学生の国語科の書写(毛筆、硬筆)についての理解</p> <p>主体B：学校教育への理解並びに協力、支援</p> <p>主体C：主体A、Bのチーム、団体の取り纏め及び学校側とのインターフェース調整</p>
<p>その他</p>	<p>地区毎に子供会協賛、主催等によるコミセンなどでの習字教室を開設し、協力/支援するなども考えられる。</p>